

令和6年度 第2回 新・いわき湯本温泉コンテンツ創造ワークショップ 結果概要（要旨）

■ 日 時

令和7年2月6日（木） 18:30～20:00

■ 場 所

旅館こいと 2階 広間

■ 全体の流れ

1 開会

2 挨拶

・じょうばん街工房 21 箱崎副会長

3 ワークショップ

・アイデアの選出～第1回のアイデアの中から実現可能で賑わいに繋がるアイデアを選出する～

（ファシリテーター：面白企画創造集団トコナツ歩兵团団長 渡部祐介※）

※株式会社マイロックチョコレート代表

4 閉会



■ ワークショップの概要（要旨） ○：参加者 ●：ファシリテーター

＜企画立案の進め方＞

■ ファシリテーターからアイデアの差別化を学ぶとともに、第1回ワークショップのアイデアの中から実現可能で賑わいに繋がるアイデアを選出していきました。

■ 特に、差別化については、湯本でなければできないこと、湯本に来なければできないことといった視点をもとに企画をブラッシュアップしていくことを学びました。
（主な意見等）

- 今日行う「差別化を加える」ことは、企画を作る上で一番難しいものです。ただ、ここがうまくできるとビジネスとして成功する可能性が高くなります。
- 第一回ワークショップで出た意見の中で実現可能性が高いもの、特に事業者が決まっているものについては今後個別ミーティングを行い、事業プランを立てていくこととしており、2～4者程度できればと思っています。
- 差別化とは、他とはっきりと違うこと。今回でいえば、湯本でなければできないこと、湯本に来なければできないことです。
- 第一回ワークショップで出た企画のうち、既にやりたい方が決まっているものに何か付け足したいと思うことがある方、またはもうちょっと違う考えを出したいという方はいますか。
- 行政がまちづくりをする際、マーケティングを持ち込んでしまうと、本来の地域資源の良さを失わせてしまうことがあるという意見があります。また、地域の歴史を見据えて、それを背景に進めていくべきという意見もあります。アイデアを出すことと、差別化を行うことはどちらを先に行うべきでしょうか。
- 差別化は思っているよりも難しいことなので、これを先に行うと、アイデアが出なくなります。そのため、アイデアが出やすいところからやったほうがよいです。
- まちづくりはコストパフォーマンスやタイムパフォーマンスではなく、生活の質をよくすること等が大事であるという意見もあります。造語等を作って差別化することは、一時的に目をひくかもしれませんが、地元で長く暮らす人の目線も重

要ではないでしょうか。

- 「稼ぐ企画」を作ることが大事だと思います。売上があれば、それが参加する事業者還元されるため、長く続けることができると思っています。他に意見はありませんか。
- 無料の森の公園。
- 有料の図書館。
- 衣装を組み合わせでカード化。
- 民泊で宴会。コンパニオン。
- 着物と香りの組み合わせ。
- 民泊でただ料理を出すのではなく、常磐ものの食材を用意しておいてお客さんに実際に料理してもらう。
- 長さ、広さが日本一の足湯。
- 足湯で和菓子を食べる。
- フラガールの格好やフラメイクができる。
- 変身願望。メイクなどできれいになれる。
- 炭鉱での強制労働の歴史の案内。
- アロハ柄の浴衣。
- ハワイに行くと、海だけでなく山もあり、トレッキングをする人もいる。もっとハワイに近づけては。
- 駅前の市役所、図書館、公民館を足湯で囲んでしまうのはどうか。
- 世界最長の足湯にちなんだ何かのレースを実施するのは。
- 着物を着て、下駄を履いて歩ける、カラコロン通りが気になる。
- 関連して、下駄の音が出やすい歩道は。
- 広葉樹に関連して、カブトムシやクワガタムシが寄ってくるような環境。
- 長い足湯に合わせて季節を感じられる植樹をしてみても。
- 古民家に泊まったら座敷童が出る仕組み。
- 温泉を利用した地熱発電。
- 差別のないまちづくり。下駄の音を出しやすくするための石畳は障害のある方にとっては歩きにくいと思う。コンパニオンも今の時代に合わないと思う。
- フタバスズキリュウの幽霊が出る民泊はどうか。
- 民泊で突然フラダンスを踊る人が出てくるのは。テーマが設定されている民泊。
- 街なかに田んぼを作って、そこで田植えをしたり、収穫したり、そのお米でおにぎりを作ったりするのはどうか。
- 温泉を使って何かできないでしょうか。温泉卵や温泉田んぼなど。
- 温泉に入りながらパブリックビューイング。
- ミステリーツアーで、石炭掘り体験。お土産で掘った石炭を持ち帰れる。
- 予約によって変わるミステリー民泊。
- 場外車券場だけでなく、お金を出してお金が戻ってくる施設は。IRのような。
- せっかく温浴施設を検討しているので、狭い施設はやめて広くしてほしい。
- 思い切って商店街の名前を変えてしまう。
- 湯本には金刀比羅神社や温泉神社などがあり、生命力にあふれている地域だと思います。こういったところで本格的なメイクをして踊ることは、自然とつながっているようで、まるでパワースポットのような気がします。ここで踊ったらパワーがつく、といったように全国に発信するのはどうでしょうか。フラの合宿もできるのでは。
- これは提案ですが、湯本には空いている店舗があるのに、それを貸したり、売った

りしないように見えます。これがもっとオープンになればもっとできることがあるのではと思っています。

- 子供をターゲットにしてリピートしてもらえようにするのは。子供向けのフラ教室を行い、その写真をあげて飾ってもらえれば思い出してもらえるのでは。
- 炭鉱長屋をロケ地にして使ってもらおう。
- 湯本に温泉があることをもっと市内向けに広報しては。子育て世代などへ。
- 様々なアイデアをいただきありがとうございました。それでは、既に事業をやりたいと表明している3名の方以外に、やってみたいと思う方はいますか。
- 外国人の強制労働や、常磐炭鉱の歴史については調査してみないと分かりませんが、やってみたいと思っています。
- 地元の子供たちが温泉を知らないことが多いと感じています。子供たちに知ってもらいたいため、広めていく活動をしたしたいと思います。
- それでは、事業企画立案をやってみたい方については、この会終了後に打合せを行います。

(ワークショップ終了時の意見)

- 温泉利権が今後どうなるのか不明なため、知っている方がいれば教えてほしい。また、原発や津波の被害を正直に見せるようなものが必要ではないか。



—以上—